

§ 5-1. 情報工学科 / Dept. of Computer Science and Engineering

1 ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針) とカリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

■教育研究上の目的

コンピュータのソフトウェア・ハードウェアの基礎及び応用を教授研究し、プログラミングに習熟させるとともに、インターネットや人工知能、知能ロボット、自然言語処理、画像処理、データベース、マルチメディア、CG、システムLSIなどの最先端のコンピュータ技術・応用技術を持つ専門的職業人及び教育研究者的人材の養成を目的とする。

■ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針) とカリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

共通コンピテンシー (能力・資質)			定義	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー (編成方針)
DP1	A	幅広い教養	リベラルアーツを目指した知識と思考力	リベラルアーツについて理解して、幅広い学問的知識から物事を柔軟に捉えることができる。	情報工学に関する技術と現代社会との関係を理解・認識できるようになるため科目を配置する。
	B	専門知識・技能	当該分野において必要とされる知識と技能	情報工学の技術者として必要な知識と技能を修得し、問題解決に応用できる。	情報工学に関する各分野における基礎的な概念・理論を修得するための科目を配置する。
DP2	C	ライフデザイン力	自分の将来を設計・構想し、成長を目指すことができる力	情報工学分野に対する継続的な学習を生涯にわたって行い、社会の変化にあわせつつ、自身の人生のキャリアを目標をもって成長させることができる。	情報学分野において、自ら継続的な学習し、意志決定を行えるようになるための科目を配置する。
	D	メタ認知・実現力	自らを客観的に理解し、目標を実現できる力	客観的な自己理解を行えるようにし、計画的かつ合理的に目標を実現できる。	変化し続ける社会の状況に対応しつつ、自身の課題に向き合い解決する能力を習得できるようになるための科目を配置する。
DP3	E	グローバルマインド	異なる背景や文化を持つ人々と積極的に関わり、協働できる力	多様な背景や価値観をもつ集団において、自身に与えられた課題を、他者を尊重しつつ協同解決できる。	多様な背景や価値観をもつ人々とコミュニケーションをとりながら共同作業する能力やを修得できるようになるための科目を配置する
	F	未来構想力	より良い未来を構想し、新しい解を生み出す力	自身のあるべき未来を構想し、種々の学問と技術の総合応用能力を駆使しつつ、独自の発想で新しい問題を解決できる。	課題に対して総合的な能力から問題を解決できるようになるための科目を配置する。
DP4	G	デジタル力	数理の基礎知識を基に、情報を的確に整理・分析することができる力	数理法則の基礎、データサイエンス、機械学習などの基礎知識を理解して、情報工学の技術者として的確に情報を整理・分析できる。	数理の基礎知識を基盤として、大量なデータに対する分析・処理を行う能力を修得できるようになるための科目を配置する。
	H	発信力	自らの考えを適切に伝えることができる力	論理的かつ明確なドキュメントを作成するとともに、的確なプレゼンテーションや討論などを行える。	自身の考えを論理的にまとめ、プレゼンテーションや討論を行う能力を修得できるようになるための科目を配置する。

■カリキュラム・ポリシー（実施方針）

【学修方法】

1	PBLに参画することなどによって、種々の問題に対する理解を深め、解決能力を養えるようにする。
2	学修ポートフォリオの活用などによって、日常的な学習を記録を行い、学修成果や目標達成度の振り返りを定期的に行う制度を運用する。
3	インターンシップやグローバルプログラムなどによって、異なる背景をもつ人々との協働の経験を積むことで、社会とのつながりを深める。
4	データベースの知識を学ぶとともに、大量のデータに対する分析・処理を行うための実践的な学修を行う。

【学修成果の評価】

1	各授業科目の学修内容、修得する知識・能力、到達目標、成績評価の方法・基準をシラバス等により学生に周知し、それに則した適切な成績評価を行う。
2	プロジェクト型演習や卒業研究における研究の進め方、新規性、目標の達成度などによって総合的に評価する。

■学修領域（教育分野）

- ①情報科学
- ②プログラミング
- ③人工知能
- ④コンピュータ技術